

キャベツ

—— 発病・加害時期
 == 発病・加害最盛期

作型・病害虫名			月											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
夏	ま	き	[Graph showing occurrence and peak periods for various diseases and pests across months 1-12]											
晩	夏	ま	[Graph showing occurrence and peak periods for various diseases and pests across months 1-12]											
秋	ま	き	[Graph showing occurrence and peak periods for various diseases and pests across months 1-12]											
べ	と	病	[Graph showing occurrence and peak periods for various diseases and pests across months 1-12]											
萎	黄	病	[Graph showing occurrence and peak periods for various diseases and pests across months 1-12]											
菌	核	病	[Graph showing occurrence and peak periods for various diseases and pests across months 1-12]											
黒	腐	病	[Graph showing occurrence and peak periods for various diseases and pests across months 1-12]											
根	こ	腐	[Graph showing occurrence and peak periods for various diseases and pests across months 1-12]											
ア	ブ	ラ	[Graph showing occurrence and peak periods for various diseases and pests across months 1-12]											
コ	ナ	ム	[Graph showing occurrence and peak periods for various diseases and pests across months 1-12]											
ハ	イ	ダ	[Graph showing occurrence and peak periods for various diseases and pests across months 1-12]											
ネ	キ	リ	[Graph showing occurrence and peak periods for various diseases and pests across months 1-12]											
ヨ	ト	ウ	[Graph showing occurrence and peak periods for various diseases and pests across months 1-12]											
ハ	ス	モ	[Graph showing occurrence and peak periods for various diseases and pests across months 1-12]											
ア	オ	ム	[Graph showing occurrence and peak periods for various diseases and pests across months 1-12]											

べと病

留意事項

- 1 低温・多雨での発生が多い。
- 2 QoI剤<11>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 3 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、リドミルゴールドMZに含まれる成分マンゼブの総使用回数は、3回以内なので注意する。
- 4 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、リドミルゴールドMZはかぶれやすいので注意する。
- 5 ダコニール1000、ダコニールアルファ、プロポーズ顆粒水和剤に含まれる成分TPNの総使用回数は、3回以内（は種又は定植前の土壌混和は1回以内、散布及びエアゾル剤の噴射は合計2回以内）なので注意する。

防除方法

- 1 排水を良好にし、密植を避ける。
- 2 チッソ質肥料の多用を避ける。
- 3 被害葉は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ジマンダイセン水和剤](#)、[ペンコゼブ水和剤](#) <M3> 【400～600倍 30日／3回】
 - ・ [ダコニール1000](#) <M5> 【1000倍 14日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [ダコニールアルファ](#) <M5> 【2000倍 14日/2回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [リドミルゴールドMZ](#) <M3> <4> 【1000倍 30日/3回】
- ・ [プロポーズ顆粒水和剤](#) <M5> <40> 【1000倍 14日/2回】
- ・ [メジャーフロアブル](#) <<11>> 【2000倍 3日/3回】
- ・ [ゾーベックエンテクタSE](#) <21> <49> 【3000倍 7日/2回】

萎黄病

留意事項

- 1 夏まきキャベツに発生が多い。
- 2 土壌温度27～30℃の時、発生が多い。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 発病株を速やかに処分する。
- 3 耐病性品種（YR、YCR）を用いる。
- 4 苗床、本ぼを土壌消毒する。（**XⅢ**土壌消毒 参照）

菌核病

留意事項

- 1 菌核が土中に残って伝染源となるので、り病株は放置せずほ場外へ持ち出す。
- 2 QoI剤<<11>>、SDHI剤<<7>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 連作を避け、田畑輪換を図る。
- 2 なばなやレタスなど、本病が発生しやすい作物との輪作を避ける。
- 3 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [セイビアーフロアブル20](#) <12> 【1000倍 前日/3回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ベンレート水和剤](#) <1> 【2000倍 7日/6回】
 - ・ [スクレアフロアブル](#) <<11>> 【2000倍 前日/3回】
 - ・ [アフェットフロアブル](#) <<7>> 【2000倍 前日/3回】
 - ・ [カナメフロアブル 劇](#) <<7>> 【4000倍 前日/3回】
 - ・ [オンリーワンフロアブル](#) <3> 【1000～2000倍 前日/3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

黒腐病

留意事項

- 1 種子・土壌伝染する。
- 2 9～10月の多雨で低温時に発生が多い。
- 3 薬剤散布は、特に台風や大雨、強風の直後に行うと効果が高い。

防除方法

- 1 無病種子を用いる。
- 2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 3 被害葉は、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 激発地では、定植時に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [オリゼメート粒剤](#) <P 2>
【6～9kg/10a 全面土壌混和又は作条土壌混和 定植時/1回】
- 5 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ヨネポン水和剤](#) <M 1> 【500倍 7日/5回】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [カスミンボルドー](#)、[カップパーシン水和剤](#) <M 1> <2 4> 【1000倍 7日/4回】
 - ・ [アグリマイシン-100](#) <2 5> <4 1> 【2000倍 14日/2回】
 - ・ [バリダシン液剤5](#) <U 1 8> 【800倍 7日/5回】

軟腐病

留意事項

- 1 薬剤散布は、特に台風や大雨、強風の直後に行うと効果が高い。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 過度の早植えは避ける。
- 3 排水を良好にし、過湿を避ける。
- 4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ヨネポン水和剤](#) <M 1> 【500倍 7日/5回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [カスミンボルドー](#)、[カップパーシン水和剤](#) <M 1> <2 4> 【1000倍 7日/4回】
 - ・ [スターナ水和剤](#) <3 1> 【1000倍 7日/3回】
 - ・ [バリダシン液剤5](#) <U 1 8> 【800倍 7日/5回】

根こぶ病

留意事項

- 1 土壌が乾燥している時に石灰窒素を施用した場合、分解促進のため、かん水を行う。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 2 オラクル粉剤の成分アミスルブロムの総使用回数は8回以内（但し、苗床での土壌混和は2回以内、かん注は1回以内、本ぼでの土壌混和は2回以内、散布は4回以内）。但し、苗床及び本ぼでの土壌混和それぞれ2回のうち、それぞれ1回は、「おとり植物（葉だいこん、エンバク等）」を栽培する場合であり、その栽培前に土壌混和する場合に使用できる。「おとり植物」の生育期間（1ヶ月程度）及びすき込み後、腐熟させる期間（1ヶ月程度）をおいて、2回目を施用する。
- 3 ランマンフロアブルの成分シアゾファミドの総使用回数は6回以内（但し、育苗期のかん注は1回以内、本ぼでの株元かん注は1回以内、散布は4回以内）。

防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 排水を良好にし、過湿を避ける。
- 3 石灰質肥料を施用して土壌酸度をpH6.5～7.2に矯正する。
- 4 石灰窒素（[石灰窒素50](#)【100～200kg/10a は種前または植付前/1回】など）を散布後土壌混和する。
- 5 過度の早植えは避ける。
- 6 発病した根は、ほ場から持ち出し、集めて処分する。
- 7 は種または、定植前に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ネビリュウ](#) < 3 6 >
 - 【20～30kg/10a 全面土壌混和 は種又は定植前/2回】または
 - 【20kg/10a 作条土壌混和 定植前/2回】
 - ・ [オラクル粉剤](#) < 2 1 >
 - 【20kg/10a 全面土壌混和 は種前（苗床）/2回】または
 - 【20kg/10a 作条土壌混和 定植前/2回】または
 - 【30kg/10a 全面土壌混和 定植前/2回】
 - ・ [ランマンフロアブル](#) < 2 1 >
 - 【500倍 かん注（セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約2.5～7L）当たり2L） 定植前日～当日/1回】
- 8 本ぼで下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ランマンフロアブル](#) < 2 1 > 【2000倍 株元かん注（250ml/株） 14日/1回】
- 9 苗床、本ぼを土壌消毒する。（[XⅢ土壌消毒](#) 参照）
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 < ー >
 - 【20～30kg/10a は種又は定植21日前/1回】

アブラムシ類

留意事項

- 1 苗床は寒冷しゃで被覆してアブラムシ類の飛来を防止する。
- 2 スタークル粒剤、アルバリン粒剤の成分ジノテフランの総使用回数は3回以内（但し、

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及びかん注は合計1回以内、散布は合計2回以内)。

- 3 プリロツソ粒剤オメガ、ベリマークSCの成分シアントラニリプロールの総使用回数は4回以内(但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内)。
- 4 アクタラ粒剤5の成分チアメトキサムの総使用回数は4回以内(但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は3回以内)。
- 5 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) < 4 A >
【2g/株 株元散布 育苗期/1回】または
【2g/株 植穴土壌混和 定植時/1回】
- 2 下記の薬剤を、セル成型育苗トレイ(培土)に処理する。
 - ・ [プリロツソ粒剤オメガ](#) < 2 8 >
【セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4L) 当たり50g 本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から均一に散布する 育苗期後半~定植当日/1回】
 - ・ [ベリマークSC](#) < 2 8 >
【400倍 かん注(セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4L) 当たり0.5L) 育苗期後半~定植当日/1回】
 - ・ [アクタラ顆粒水溶剤](#) < 4 A >
【100倍 0.5L/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm・使用土壌約3~4L) かん注 育苗期後半/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 < 4 A > 【2000~4000倍 7日/5回】
 - ・ [コルト顆粒水和剤](#) < 9 B > 【3000~4000倍 前日/3回】
 - ・ [トランスフォームフロアブル](#) < 4 C > 【2000倍 前日/3回】

コナガ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 幼虫による被害が著しいのは春と秋である。
- 3 あぶらな科野菜を加害するほかナズナ、イヌガラシ、スカシタゴボウなどのあぶらな科雑草にも寄生する。
- 4 セル成型苗では、定植前に粒剤を株元散布すると省力的に防除できる。

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 5 ダントツ粒剤の成分クロチアニジンの総使用回数は、3回以内（但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は2回以内）。
- 6 プリロッソ粒剤オメガ、ベリマークSCの成分シアントラニリプロールの総使用回数は4回以内（但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内）。

防除方法

- 1 フェロモンディスペンサーを利用する。（野菜類の項 参照）
- 2 下記の薬剤を施用する。
 - ・ **ダントツ粒剤** < 4 A >
 - 【0.5g/株 株元処理 育苗期後半/1回】または
 - 【2g/株 植穴処理土壌混和 定植時/1回】
- 3 下記の薬剤を、セル成型育苗トレイ（培土）に処理する。
 - ・ **プリロッソ粒剤オメガ** < 2 8 >
 - 【セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L）当たり50g 本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から均一に散布する 育苗期後半～定植当日/1回】
 - ・ **ベリマークSC** < 2 8 >
 - 【400倍 かん注（セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5L～4L）当たり0.5L） 育苗期後半～定植当日/1回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ **グレーシア乳剤** < 3 0 > 【結球あぶらな科葉菜類 2000～3000倍 7日/2回】
 - ・ **アフーム乳剤** < 6 > 【1000～2000倍 前日/3回】
 - ・ **ディアナSC** < 5 > 【2500～5000倍 前日/2回】
 - ・ **コテツフロアブル 劇** < 1 3 > 【2000倍 前日/2回】
 - ・ **アクセルフロアブル** < 2 2 B > 【1000倍 前日/3回】
 - ・ **BT剤** < 1 1 A > （Ⅹ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイ）

留意事項

- 1 だいこん等あぶらな科作物を加害する。
- 2 8～9月（育苗期～定植直後）の冬キャベツに被害が多い。
- 3 7～10月が高温少雨の年に多発する傾向がある。
- 4 食入前の防除に努める。
- 5 アクタラ粒剤5の成分チアメトキサムの総使用回数は4回以内（但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は3回以内）。
- 6 スタークル粒剤、アルバリン粒剤の成分ジノテフランの総使用回数は3回以内（但し、育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及びかん注は合計1回以内、散布は合計2回

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

以内)。

- 7 ヨーバルフロアブルの成分テトラニリプロールの総使用回数は4回以内(但し、かん注は1回以内、散布は合計3回以内)
- 8 プリロツソ粒剤オメガの成分シアントラニリプロールの総使用回数は4回以内(但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内)。

防除方法

- 1 育苗中の苗は、寒冷しゃ等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 定植には健全苗を使用し、本ぼへの幼虫の持ち込みを防ぐ。
- 3 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [アクタラ粒剤5](#) <4 A>
【2g/株 株元散布 育苗期後半/1回】または
【2g/株 植穴処理 定植時/1回】
- 4 下記の薬剤を育苗時に、セル成型育苗トレイ(培土)に処理する。
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) <4 A>
【50~100倍 かん注(セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約3L)当たり0.5L) 定植前日~定植時/1回】
 - ・ [ヨーバルフロアブル](#) <2 8>
【200倍 かん注(セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4L)当たり0.5L) 育苗期後半~定植当日/1回】
 - ・ [プリロツソ粒剤オメガ](#) <2 8>
【セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4L)当たり50g 本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から均一に散布する 育苗期後半~定植当日/1回】
- 5 発生初期に、薬液が芯葉にかかるよう丁寧に散布する。
 - ・ [グレーシア乳剤](#) <3 0> 【結球あぶらな科葉菜類 2000~3000倍 7日/2回】
 - ・ [アフーム乳剤](#) <6> 【1000~2000倍 前日/3回】
 - ・ [ディアナSC](#) <5> 【2500~5000倍 前日/2回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) <UN> 【1000倍 7日/2回】
 - ・ [アクセルフロアブル](#) <2 2 B> 【1000~2000倍 前日/3回】

ネキリムシ類

留意事項

- 1 ネキリムシ類とはカブラヤガ、タマナヤガ、シロモンヤガ、センモンヤガの幼虫の総称で、被害の大部分は、カブラヤガもしくはタマナヤガによる。

防除方法

- 1 被害を認めたら下記の薬剤を施用する。

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [ダイアジノン粒剤5](#) < 1 B >
【4～6kg/10a 全面土壌混和又は作条土壌混和 は種時又は定植時/2回】
または【6kg/10a 土壌表面散布 定植時/1回】
- ・ [フォース粒剤 劇](#) < 3 A > 【4kg/10a 全面土壌混和 定植時/1回】
- ・ [アクセルベイト](#) < 2 2 B > 【3～6kg/10a 株元散布 7日/3回】
- ・ [デナポン5%ベイト](#) < 1 A > 【3～6kg/10a 株元散布 14日/3回】

ヨトウムシ

留意事項

- 1 若齢幼虫の防除に重点を置く。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アフーム乳剤](#) < 6 > 【1000～2000倍 前日/3回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) < 3 A > 【2000倍 3日/5回】
 - ・ [ディアナSC](#) < 5 > 【2500～5000倍 前日/2回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) < UN > 【1000倍 7日/2回】
 - ・ [フェニックスマストフロアブル](#) < 2 8 > < 4 E > 【2000倍 前日/2回】
 - ・ [BT剤](#) < 1 1 A > (区野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

ハスモンヨトウ

留意事項

- 1 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 3 ベリマークSCの成分シアントラニリプロールの総使用回数は4回以内（但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内）。
- 4 ジュリボフロアブルの成分クロラントラニリプロールの総使用回数は4回以内（但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内）。また成分チアメトキサムの総使用回数は4回以内（但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内）。

防除方法

- 1 下記の薬剤を、セル成型育苗トレイ（培土）にかん注処理する。
 - ・ [ベリマークSC](#) < 2 8 >
【400倍 かん注（セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L）当たり0.5L） 育苗期後半～定植当日/1回】
 - ・ [ジュリボフロアブル](#) < 4 A > < 2 8 >
【200倍 かん注（セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

使用土壌約1.5～4L) 当たり0.5L) 育苗期後半～定植当日/1回】

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [アニキ乳剤](#) <6> 【1000～2000倍 3日/3回】
- ・ [ブロフレアSC](#) <30> 【2000～4000倍 前日/3回】
- ・ [コテツフロアブル 劇](#) <13> 【2000倍 前日/2回】
- ・ [プレオフロアブル](#) <UN> 【1000倍 7日/2回】
- ・ [フェニックスマストフロアブル](#) <28> <4E> 【2000倍 前日/2回】
- ・ [BT剤](#) <11A> (Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

シロイチモジヨトウ

留意事項

- 1 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 2 コナガ、ハスモンヨトウなどと同時防除を行う。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [コテツフロアブル 劇](#) <13> 【2000倍 前日/2回】
- ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) <5> 【2500～5000倍 3日/3回】
- ・ [ベネビアOD](#) <28> 【2000～4000倍 前日/3回】
- ・ [フェニックスマストフロアブル](#) <28> <4E> 【2000倍 前日/2回】
- ・ [BT剤](#) <11A> (Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

アオムシ

留意事項

- 1 幼虫による被害の著しいのは春と秋である。
- 2 アオムシに対する薬剤の効果は高いのでコナガ、ヨトウムシ類などと同時防除を行う。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [トレボン乳剤](#) <3A> 【1000～2000倍 3日/3回】
- ・ [グレーシア乳剤](#) <30> 【結球あぶらな科葉菜類 2000～3000倍 7日/2回】
- ・ [アフファーム乳剤](#) <6> 【1000～2000倍 前日/3回】
- ・ [フェニックスマストフロアブル](#) <28> <4E> 【2000倍 前日/2回】
- ・ [BT剤](#) <11A> (Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。